

令和7年12月19日

令和7年度病害虫防除技術情報（第8号）

和歌山県農作物病害虫防除所

ハスモンヨトウの薬剤感受性検定の結果

県内のほ場から採集したハスモンヨトウ（図）において、合成ピレスロイド剤、BT剤、ジアミド剤、プレオフロアブルに対する感受性低下が認められました。各ほ場で感受性が異なりますので、薬剤の効果を確かめながら防除を実施してください。

1. 検定方法

表1に示した各ほ場からハスモンヨトウの卵塊または幼虫を採集し、累代飼育した第1世代または第2世代の2齢幼虫を供試しました。

検定は、食餌浸漬法としました。直径5cmに切り取ったパクチョイ（アブラナ科）葉片を所定濃度の薬液（展着剤としてグラミン0.02%加用）に約30秒間浸漬し、風乾した後、葉片2枚と幼虫5頭をプラスチックシャーレに入れ静置しました。無処理区では、展着剤を加えた水道水に葉片を浸漬しました。各区6反復とし、処理3、7日後に生死を確認し、補正死虫率を求めました。

$$\text{補正死虫率 (\%)} = \{(\text{無処理区生存率} - \text{処理区生存率}) / \text{無処理区生存率}\} \times 100$$

2. 結果（表2）

- 1) 3個体群とも感受性の高い薬剤は、ディアナSC、アファーム乳剤、コテツフロアブル、マッチ乳剤、ファルコンフロアブル、トルネードエースDF、アクセルフロアブル、グレーシア乳剤でした。
- 2) 合成ピレスロイド剤（IRACコード3A）のアディオン乳剤に対し、3個体群とも感受性が低い結果でした。
- 3) BT剤（IRACコード11A）のデルフィン顆粒水和剤、フローバックDFに対し、1個体群の感受性が低い結果でした。
- 4) ジアミド剤（IRACコード28）のフェニックス顆粒水和剤、プレバソンフロアブル5、ベネビアODに対し、1個体群の感受性が低い結果でした。
- 5) プレオフロアブル（IRACコードUN）に対し、1個体群の感受性が低い結果でした。

3. 防除対策

- 1) 幼虫が中～老齢になると薬剤の防除効果が低下するので、若齢幼虫期の防除を徹底してください。
- 2) 合成ピレスロイド剤、BT剤、ジアミド剤、プレオフロアブルにおいて、一部個体群での薬剤感受性の低下が認められます。薬剤の効果低下が疑われる場合は、表2を参考に効果が見込める薬剤を使用するとともに、同一系統の薬剤の連用を避けてください。
- 3) 薬剤については、最新の登録情報（農林水産省農薬登録情報提供システム <https://pesticide.maff.go.jp/>）を参照し、適正に使用してください。
- 4) ほ場を見回り、卵塊や分散前の幼虫は、見つけ次第捕殺してください。
- 5) 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットの被覆や防蛾灯（黄色・緑色灯）の夜間点灯を行ってください。

表1 供試したハスモンヨトウの採集地等

採集地	採集年月	作物
紀の川市貴志川町	2025年8月	露地なす
岩出市	2025年9月	露地なす
御坊市	2025年3月	施設ピーマン

表2 各種薬剤に対するハスモンヨトウ 2齢幼虫の感受性

IRAC コード	供試薬剤名	希釈 倍数	補正死虫率 (%)					
			紀の川市		岩出市		御坊市	
			3日後	7日後	3日後	7日後	3日後	7日後
1A	ランネット45DF	2,000	97	100	100	97	—	—
3A	アディオン乳剤	2,000	52	48	40	24	59	12
4E	フィールドマストフロアブル	4,000	100	100	100	100	—	—
5	ディアナSC	5,000	100	100	100	100	97	94
6	アファーム乳剤	2,000	62	97	100	100	97	100
6	アニキ乳剤	2,000	100	100	100	100	—	—
11A	デルフィン顆粒水和剤	1,000	38	47	97	97	83	90
11A	フローバックDF	1,000	18	0	85	83	73	83
12	コテツフロアブル	2,000	100	100	100	100	100	100
15	マッチ乳剤	2,000	100	100	97	100	100	100
18	ファルコンフロアブル	4,000	76	100	100	100	87	100
22A	トルネードエースDF	2,000	100	100	97	100	77	100
22B	アクセルフロアブル	2,000	100	100	93	100	90	100
28	フェニックス顆粒水和剤	4,000	100	100	83	76	—	—
28	プレバソンフロアブル5	2,000	100	100	83	77	—	—
28	ペネビアOD	4,000	100	100	100	100	40	36
28	ヨーバルフロアブル	5,000	100	100	97	100	—	—
30	グレーシア乳剤	2,000	100	100	100	100	100	100
UN	プレオフロアブル	1,000	100	100	100	100	3	0
無処理区（死虫率）			3	3	0	0	3	3

※ 補正死虫率(%)=[(無処理区生存率-処理区生存率)/無処理区生存率]×100

※ 補正死虫率の“—”は未実施

※ 処理7日後の補正死虫率が80%以上の場合は感受性が高く、80%未満の場合は感受性が低いとし、■は感受性が低いことを示す

※ 25°C、16L8D 条件

※ 苦悶虫は死虫とみなした



図 ハスモンヨトウ (左:卵塊、中央:若齢幼虫、右:老齢幼虫)

和歌山県農作物病害虫防除所
電話: 0736(64)2300